

大子中学校だより



ポータルサイト<https://www.daigo.ed.jp/page/dir000009.html>

夢に向かって挑戦し、手応えを実感する

文責 校長 長山 芳子

太子町立太子中学校

久慈郡大子町池田1648

TEL 72-0158, FAX 72-0461

伝統の話芸～落語・講談・浪曲の世界に浸りました～



11月16日(木)体育館が大きな演芸場になり、全校生徒がプロの落語・講談・浪曲の世界に浸りました。昨年のオーケストラに続き、文化庁主催「文化芸術による子供育成推進事業」による巡回講演を実施しました。

「落語」「講談」「浪曲」これら3つの芸能は、もともとお坊さんがお釈迦様の教えを分かりやすくお話をする「法話」から生まれたそうです。お坊さんたちは人々が退屈しないように、工夫してお話をする中で、その話し方の工夫で次の3つの芸に変化しました。

＜落語＞落語家 桂 雀太さん

「オチ」を入れて話す芸。オチのある話を小咄(こぼなし)といい、この小咄を長くしていったのが「落語」です。公演では、落語「動物園」を聴きました。



＜講談＞講談師 旭堂 南龍さん

本を読むように話す芸。張り扇で釈台を叩くことで、リズムの調子を取り一息で長い文言を読み上げます。公演では講談「一休禅師」を聴きました。

＜浪曲＞浪曲師 真山隼人さん

歌のように話す芸。豊かな声量で登場人物の心情を歌で表現し、合間にセリフを入れながら、三味線の伴奏で物語を進めます。公演では、浪曲「徂徠豆腐」を聴きました。

公演前には、学年毎に別会場に分かれて、それぞれ15分間、3人の演者から話芸について学びました。その中で、生徒達は、体験したり、演者とのやり取りをしたりその世界に引き込まれていきました。その後体育館で一同に会して、浪曲、講談、落語を聞表情で聴き入ったりして楽しみました。

日常生活の中の面白さを「どうしたら人に伝わるか」を追究し、日々芸を磨いてらっしゃる3人の芸能人から「話すこと」「伝えること」の極意を学び、充実した時間となりました。



生徒の感想

私は、講談を体験しました。即興で考えたので、難しかったです。私の将来の夢は漫画家ですが、南龍さんの講談を聞き、講師にも興味を持ちました（三年〇〇〇〇）

ぼくは、講談を体験しました。今までは講談を知らなかったし、もちろんやったこともなかったもので、今回の体験は楽しく、よい経験になりました。(三年 〇〇〇〇)

語り手の一言一言に工夫がさ
れており、道具を使用し、登場
人物の仕草や感情を目で見え
るようでした。三つの話を聞
近で見ることができ、よかったです。
(二年 〇〇〇〇)

今までほとんど話芸を見てなかつたので、どんなものなのか想像が付きませんでした。実際に見て、どれも話の表現が特徴的でまた見たいと思ひました。(二年　〇〇〇〇)

落語・講談・浪曲それぞれの
特徴があり、感じました。ワ
ークシヨップでは講談の体験を
しました。時々言葉が詰まって
しまいました。面白かったです。
（二年〇〇〇）

体験し、人前で堂々と話すことはすごいと思いました。ぼくは緊張して言葉を詰まらずに話すことが精一杯でした。また伝統文化の素晴らしさを知りました（一年〇〇〇〇）

二者・三者面談ありがとうございました



保護者の皆様、ご多用の中、ご来校いただきありがとうございました。今回の話し合いを大切に、生徒のよりよい成長のため、今後のかかわりに生かしていきます。